

## 1 調査結果の分析

平成24年度学力向上を図るための調査の結果を基に観点別に分析した結果と各学年の実態を以下に記す。

### <関心・意欲・態度>

児童の関心・意欲・態度は全般的に高い。

### <話すこと・聞くこと>

話の中心に気を付けて聞く力や、話し手の意図を捉えながら聞く力は備わっているが、目的に応じて細部まで正確に聞き取ることができていない。

### <書くこと>

適切な表現で文を書くことができる児童が多い一方で、伝える相手によって内容を選択し、明確にして、構成を考える力がやや弱い。

### <読むこと>

物語の場面の様子を、叙述をもとに正確に読み取る力が弱い。また、叙述の工夫についても読み取れていない子が半数以上いる。

### <言語についての知識・理解>

全般的に正答率が高いが、「2つの漢字に共通する読み方」や「部首が表す意味や、漢字の一部が表す読み方から漢字を推測し、正しく書く」ことが理解できていない。普段の生活で聞き慣れない言葉を漢字の意味と結び付けられない児童が多いことも要因として考えられる。

### <取り出す力、読み取る力、解決する力>

筆者の投げかけた問いを取り出すことはできるが、段落と段落を比較・関連付けて読み、段落相互の関係から文章構成を捉え、筆者の意図を理解・解釈して、その要旨を再構成する力が弱い。

## 2 授業改善の方策

<話す・聞く>話の中心だけでなく、細部まで正確に聞く注意力を養う。**そのために、ゲーム的な要素を取り入れたスキル学習を適宜行う。**

<書くこと>伝える相手によって、内容を選択したり、効果的な表現を考えたりする学習を行う。

**そのために、立場の違ういろいろな相手に伝える文章を書く機会を設ける。**

<読むこと>文学的な文章を読むときは叙述から場面の様子をイメージすることを大事に指導すると同時に表現の工夫を理解できるように丁寧に指導する。**そのために、短い文章からイメージさせたり、優れた表現を紹介したりする機会を増やす。** 説明的な文章では、要点、文章構成、要旨を捉える学習から文章全体を再構築する力を養う。**そのために、「読み取りのコツ」や「読み解きナビ」を活用し、中学年からは、文章の再構築を意識したまとめの仕方を多く取り入れる。**

<言語の知識・理解>普段から辞書を活用する機会を多く設ける。語彙量を増やす言葉の学習を意識的に行う。**そのために、取り立てて言葉の学習の時間を設ける。主語と述語の対応、修飾語と被修飾語の関係、を押さえる。言葉遊びなどで、語彙を増やす機会を設ける。**

## 3 活用につながる指導

- 文章を読み解く方法を身に付けさせるために、「読み取りのコツ」を示し、短い文章を使い、児童自身が自力で文章を正確に読み取れるようにする。
- 自分の考えを文章に表現する機会を増やし、優れた表現を自分の表現活動に生かすような学習計画を立てる。